

合格証明書



GODOX WeChat 公式アカウント

深圳市神牛摄影器材有限公司

所在地：深圳市宝安区福海街道塘尾社区耀川工業区工場 2 棟

電話：0755-29609320(8062) FAX:0755-25723423

メールアドレス：godox@godox.com

www.godox.com

Made in China | 705-V1MD00-01

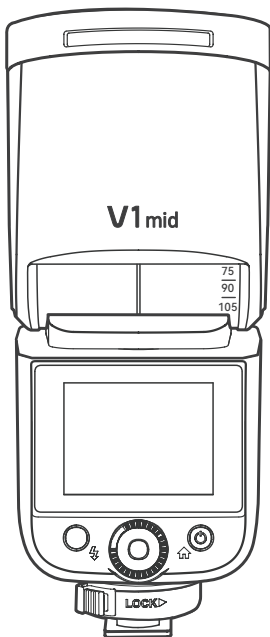


Godox

V1mid

(C S N F O)

TTL リチウムイオン丸型ヘッドカメラトップストロボ



取扱説明書

目次

01	重要な安全上のご注意
04	はじめに
04	製品特徴
05	部品名称
	本体
	2 インチタッチ式カラースクリーン
06	付属品リスト
07	オプションアクセサリ
08	電池の取外し・装着
08	電池残量表示
09	ストロボの取外し・装着
09	電源管理
10	トップモード
	TTL: 自動ストロボ
	M: 手動ストロボ
	ズーム: ストロボ照射範囲の設定
13	マスター制御モード
	マスターグループ
	TTL: 自動ストロボ
	M: 手動ストロボ
	全グループのパラメーター一括調整
	ズーム: ストロボ照射範囲の設定
14	スレーブモード
	スレーブグループ
	TTL: 自動ストロボ
	M: 手動ストロボ
	ストロボ出力設定
	ズーム: ストロボ照射範囲の設定
16	その他の機能
	同期方式
	光制御引き込み
	ブザー
	モデリングライト
	画面ロック
	ストロボ連続発光
20	ワイヤレス設定
22	メニュー設定
24	ワイヤレス多重ストロボ撮影 (2.4G ワイヤレス伝送)
	TTL: TTL 自動ストロボを使用したワイヤレス多重ストロボ撮影
	M: M 手動ストロボを使用したワイヤレス多重ストロボ撮影
	異なるストロボモードによるワイヤレス多重ストロボ撮影
	ストロボ連続発光によるワイヤレス多重ストロボ撮影

27	その他の応用
28	カメラメニューによるストロボ制御 (V1 mid C のみ対応)
30	グローバルシャッター同期撮影 (V1 mid S のみ対応)
32	保護機能
33	ゴドックス 2.4G ワイヤレス誤発光の原因と対処方法
34	故障診断ガイド
35	仕様パラメーター
37	ファームウェアアップデート
37	対応カメラリスト

重要な安全上のご注意

本製品は専門的な写真機器であり、専門知識を有する方が操作してください。

使用前に必ず製品のすべての輸送保護材および包装を取り外してください。

使用時は以下の基本的な安全予防措置を遵守してください。

1. 本製品を使用する前に、必ず取扱説明書をよく読み、完全に理解し、記載されている安全上の注意事項に従って操作してください。これを怠ると、死亡、重傷、製品破損またはその他の財産損害の原因となる危険があります。
2. ストロボ作動時は高電圧が発生しており、電源を切った後も機器内部のコンデンサーは一定時間帯電し続けます。
3. 本製品は専門的な照明機器であり、児童の使用を禁止いたします。児童が近づく場合には、成人が厳重に監督し、児童が機器に衝突したり、勝手に使用したりして人身事故を起こさないよう十分ご注意ください。
4. 本機器は一般照明用ではありません。目に障害がある方や光に敏感な方は、本機器の使用および直視をお控えください。
5. 使用時は十分ご注意ください。フラッシュチューブなどの高温部に触れることは厳禁であり、やけどの恐れがあります。
6. いかなる場合でもストロボを人の目（特に乳児の目）に直接向けることは禁止されています。そうした場合、短時間で視力障害を引き起こすおそれがあります。目に異常を感じた場合は、直ちに照明装置の電源を切り、使用を中止のうえ速やかに医療機関を受診してください。
7. カメラトップストロボとレフ板を併用し、焦点距離が 14mm の場合は、焦点距離が過近のため 1/1 出力のストロボを長時間使用することを厳禁とします。最大熱保護回数に達した場合は、必ず 10 分間休止してから使用を再開してください。
8. フラッシュチューブが破損した際は、直ちに使用を中止し、事故防止のため製造元、サービス代理店または認定修理技術者により交換してください。
9. 破損した機器やアクセサリーの使用は厳禁であり、必ず専門の修理担当者による点検・修理をお待ちください。機器が正常であることを確認してから、使用を続けてください。
10. 蛍光管、保護ガラス、またはヒューズを交換する前には、電源を必ず切るか、電池（装着されている場合）を取り外し、機器と電源の完全な切断を確実にしてください。蛍光管を交換する前に 10 分間十分に冷却し、操作時には絶縁手袋または耐熱手袋を必ず着用してください。
11. 使用中に製品が落下、圧迫、または強い衝撃により外装が破損した場合は、直ちに使用を中止し、内部の電子部品に触れて感電や怪我をしないよう十分ご注意ください。
12. 清掃および保守を行う前に、必ず電源コンセントから機器の電源プラグを抜いてください。電源ケーブルを無理に引っ張って

抜かないでください。正しい方法は両手でプラグの端部をしっかり持って抜くことです。

13. 本機器は防水仕様ではありません。必ず乾燥した状態を保ち、水やその他の液体に浸さないでください。通気性の良い乾燥した場所に設置し、雨天、湿気、多塵、多湿または過熱環境での使用を避けてください。機器の上に物を置いたり、液体が内部に流れ込まないようにし、事故の発生を防いでください。
14. 無断で本製品を分解しないでください。製品に故障が発生した場合は、必ず当社もしくは認定修理担当者に点検および修理を依頼してください。
15. 機器を保管する前に、機器が完全に冷却されていることを確認し、電源ケーブルを抜いてから収納ケースまたは通風の良い乾燥した場所に保管してください。
16. 機器を、アルコール、ガソリンなどの可燃性揮発性溶剤や、メタン、エタンなどの可燃性ガスの近くに置かないでください。
17. 本機器は、爆発の危険がある環境での使用および保管を禁止します。
18. 機器の放熱口を覆うことは厳禁です！
19. 当社が認証していないアクセサリーの使用は、火災、感電、または人身傷害の原因となるためお控えください。
20. 機器を清掃する際は、乾いた柔らかい布で優しく拭いてください。湿った布の使用はお控えください。機器を損傷する恐れがあります。
21. 一部製品には保護カバーが装着されており、ご使用前に必ず取り外してください。
22. 本使用説明書は厳格な試験に基づき作成されており、設計および仕様は予告なく変更される場合があります。最新の電子版使用説明書および製品の最新情報は、当社公式ウェブサイトにてご確認ください。
23. 一部製品には内蔵リチウムイオン電池が搭載されており、専用充電器での充電と規定の電圧および温度範囲内での正しい操作が必要です。
24. 一部製品はリチウムイオン電池で駆動します。この種のリチウムイオン電池は使用寿命が限られており、徐々に蓄電能力が低下し、この能力の低下は不可逆的です。電池が劣化すると製品の連続使用時間が短くなります。リチウムイオン電池の使用寿命はおおよそ 2~3 年です。定期的に電池の状態を点検してください。充電時間が明らかに延びる、または連続使用時間が著しく短くなる場合は、新しい電池への交換をお勧めいたします。
25. 一部の製品にはリチウムイオンバッテリーが搭載されています。保管時には以下の点にご留意ください：保管前にバッテリー残量を約 50% まで充電または放電してください。少なくとも 6 か月に一度、約 50% まで充電してください。取り外し可能なバッテリーは個別に保管してください。保管温度は 0°C から 40°C の範囲にしてください。
26. 一部の製品はリチウムイオンバッテリーを電源としています。

下記の事項にご注意ください。

- バッテリーを分解・圧縮・穿刺しないでください。
 - バッテリーには防水機能がありませんので、霧や水中に浸さないでください。
 - バッテリーの端子部が短絡しないようにご注意ください。
 - バッテリーを火気の近くや火中に近づけたり、投入したりしないでください。
 - バッテリーを 60℃ 以上の高温にさらさないでください。
 - バッテリーはお子様の手の届かない場所に保管してください。
 - バッテリーに過度な衝撃や振動を与えないでください。
 - 破損したバッテリーは使用しないでください。
 - バッテリーが液漏れした場合は、漏れた液体に触れないようご注意ください。
 - バッテリー液が目に入った場合は、ただちに水で少なくとも 15 分間洗い流し、まぶたを上げてください。液体がなくなったことを確認した後、速やかに医師の診察を受けてください。
27. バッテリーを処理する際は、必ず事前に現地の関連法令・規則を確認し、これを遵守してください。
28. 本機器一式の保証期間は 1 年間です。バッテリー、アダプター、電源コード等の消耗品および付属品は、保証の対象外となります。
29. ご自身で修理された場合は保証資格が無効となり、修理費用が発生いたします。
30. リチウムイオンバッテリーをお受け取りの際は、速やかにバッテリーの状態や残量をご確認いただき、万一品質に問題がある場合は、保証期間内にゴドックスまたはゴドックス正規販売店までご連絡ください。
31. 不適切な操作による故障は保証の対象外となります。

はじめに

このたびはゴドックス（Godox）製品をお選びいただき、誠にありがとうございます。

V1 mid は、ゴドックス 2.4G ワイヤレス X システムを内蔵し、タッチ操作に対応した丸型ヘッドカメラトップストロボです。柔らかな光効果と使いやすさを兼ね備え、カメラトップ・マスター・スレーブの 3 つのモードを搭載しています。キャノン、ソニー、ニコン、オリンパス、パナソニック、フジなど、主な各ブランドカメラの TTL モードに完全対応しており、複雑で多様な撮影環境においても、快適な操作性とプロフェッショナルな撮影効果を提供します。

V1 mid C はキャノンカメラ対応です。

V1 mid S はソニーカメラ対応です。

V1 mid N はニコンカメラ対応です。

V1 mid F はフジカメラ対応です。

V1 mid O はオリンパスまたはパナソニックカメラ対応です。

製品特徴

光の効果が柔らかい: 円形ヘッド設計により、均一で柔らかな補助光を提供します。

高速な操作性: 2 インチのタッチ操作式カラーディスプレイと物理ボタンによる二重の操作方式で、直感的かつ容易にご使用いただけます。

LED モデリングランプ: 内蔵 LED モデリングランプは 1~10 段階で明るさ調整が可能で、事前に光と影の効果をご確認いただけます。

TTL 対応: TTL 自動発光に対応し、操作工程を簡潔化します。

ワイヤレス機能: ゴドックス 2.4G ワイヤレス X システムを内蔵し、プロフェッショナルな撮影に安定した創造的なライティング環境を提供します。

プロフェッショナル機能: マニュアル発光、ストロボ連続発光、ハイスピードシンクロ、後幕シンクロに対応しています。露出補正など。

安定した出力: 高速連写時にも発光出力の色彩および輝度を一定に保ちます。

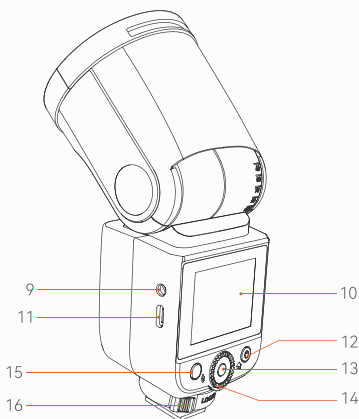
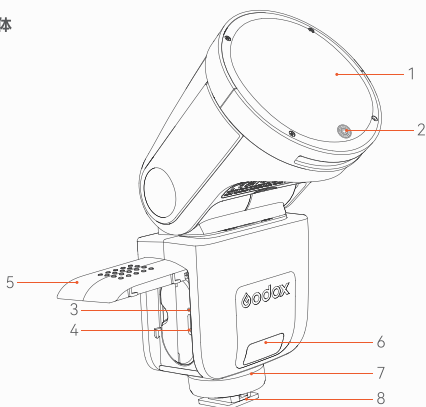
ファームウェアアップデート: 定期的にファームウェアを更新し、最新のカメラ機種に対応することで、最適な性能を確保します。

高効率電源: 7.2V/2200mAh のリチウムイオンバッテリーを搭載し、満充電状態で全出力発光約 650 回が可能、最速リサイクルタイムは 1.7 秒です。

注: 最速リサイクルタイムはゴドックスの試験室によるテスト結果に基づきます。高負荷で連続発光した場合、安全な放熱のためにシステムが自動的にリサイクルタイムを延長します。これは正常な保護機能です。機器の温度が下がりましたら、最大リサイクル速度が回復します

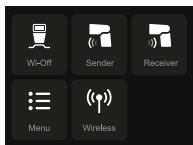
部品名称

本体

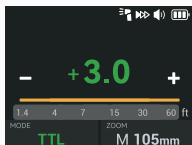


- | | |
|---|--|
| 1. ストロボヘッド | 9. シンクロ端子 |
| 2. LED モデリングランプ | 10. タッチ操作カラーディスプレイ |
| 3. バッテリー充電インジケーター
(充電中はインジケーターが赤色、
満充電時は緑色に変わります) | 11. USB-C ファームウェアアップデート端子 (ファームウェアアップデート用) |
| 4. USB Type-C 充電ポート
(バッテリー充電用) | 12. 電源ボタン (短く押すとモードに入り/モード画面に戻ります。モード中に 2 回短く押すと、他の機能画面が表示されます。) |
| 5. バッテリーカバー | 13. 設定ボタン |
| 6. オプティカルセンサー | 14. 調節ダイヤル |
| 7. ストロボロックリング | 15. テスト発光ボタン/充電インジケーター |
| 8. ホットシュー | 16. 固定ホットシュー締めネジ |

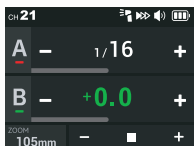
2 インチタッチ式カラースクリーン



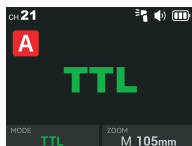
モード画面



トップモード

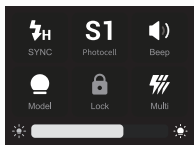


マスター制御モード



スレープモード

(表示画面はV1 mid C マスター画面です。
他のモデルの画面は異なります。)

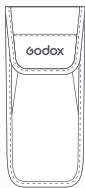


その他の機能画面

付属品リスト



ヘッド本体 ×1



収納バッグ ×1



リチウムイオン
バッテリー ×1



充電器
×1



ミニスタンド
×1



USB-C 充電ケーブル ×1



取扱説明書 ×1

オプションアクセサリー

最適な撮影効果と使用体験を得るために、当社の下記撮影アクセサリーを別途ご購入いただけます。



トリガー X2T シリーズ



トリガー XProII シリーズ



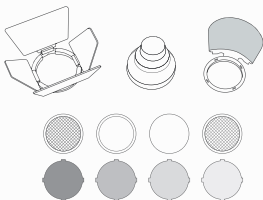
トリガー X3 シリーズ



X3Pro シリーズ



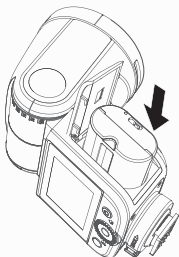
S2/S3 ブラケット



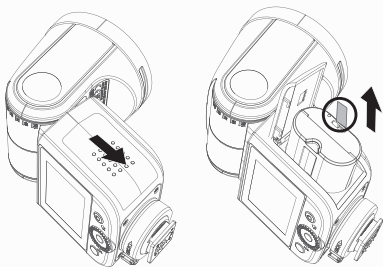
AK-R1 丸型ヘッドアクセサリー
セット

電池の取外し・装着

取付け：指示に従いリチウムイオンバッテリーをバッテリーコンパートメントに挿入し、次にバッテリーカバーを下方方向に押し込み、スロットに差し込んで取付けを完了します。







取外し：図に従ってバッテリーカバーを押し出すと、バッテリーが自動的に跳ね上がりますので、そのまま引き抜いて取外しが完了します。



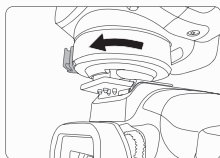
電池残量表示

リチウムイオンバッテリーを正しくストロボに取付けると、ストロボに電源を供給できます。ご使用時は、ストロボ画面上のバッテリーアイコンをご確認いただくことで、バッテリー残量を随時ご把握いただけます。

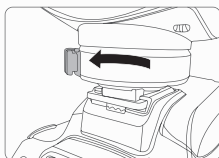
バッテリー残量表示	説明
 3 格	満電
 2 格	中電
 1 格	低電
 無格	バッテリー残量が少なくなっています。速やかに充電してください。
無格点滅	バッテリー残量がまもなくなくなります。この状態ではストロボの動作はできません。 注 この状態では必ず 10 日以内に充電を行い、ご使用または保管してください。

ストロボの取外し・装着

取付: 固定ホットシュー締めネジを押さえながらストロボロックリングを左へ回して上部まで移動し、カメラのホットシューに挿入します。その後、ストロボロックリングを右へ回して下部まで移動させると、ホットシューが固定されます。



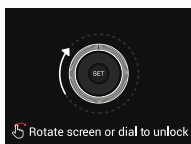
取外し: 固定ホットシュー締めネジを押さえながらストロボロックリングを左へ回して上部まで移動させてください。ホットシューのロックを解除し、このときストロボを取り外して、取り外しを完了します。



⚠ 必ずストロボおよびカメラの取り付け・取り外しの際には、カメラおよびストロボ双方の電源をオフにしてください。機器の損傷を防止するためです。

電源管理

電源オン: 電源ボタンを長押しし、画面に「SET」アイコンが表示されるまで押し続けてください。その後、画面に軽く触れて矢印の方向にスライドするか、調節ダイヤルを時計回りに回して電源を入れます。
6 秒以内にロック解除操作がない場合、自動的に電源がオフになります。



スリープ:

トップモード / マスター制御モードで待機状態の際、長時間操作がない場合（約 90 秒）、ストロボは自動的にスリープ状態になります。シャッターを半押しするか、本体のいずれかのボタンに触れることで復帰可能です。

自動電源オフ:

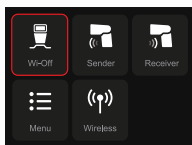
トップモード / マスター制御モード: 待機中は電源がオフとなり、自動電源オフ機能が有効です。60 分以上（30 分または 90 分にも設定可能）操作がない場合、ストロボは自動的に電源オフになります。

スリープモード: 自動電源オフ機能が有効であり、60 分以上（30 分または 90 分にも設定可能）操作がない場合、ストロボは自動的に電源オフになります。オフカメラで使用する際は、自動電源オフ機能を手動で無効にすることが可能です。

トップモード

タッチ使用: 画面左端から右にスワイプすると、モード画面が表示されます。画面上の「トップ」アイコンをタッチすると、トップモードのメイン画面に入ります。

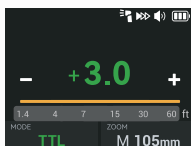
ダイヤルホイールおよびボタンの使用: 電源ボタンを短く押すと、モード画面が表示されます。回転調整ダイヤルホイールで「トップ」アイコンを選択し、設定ボタンを短押ししてトップモードのメイン画面に入ります。



TTL: 自動ストロボ

TTL モードでは、カメラの測光システムが被写体から反射されるフラッシュ光を検知します。これにより、発光出力が自動的に調整され、被写体と背景の露出が均一に保たれます。

タッチ使用: 「モード」アイコンをタッチすることで切り替えが可能です。TTL モードでは、画面上の - または + アイコンをタッチして、 ± 3 の範囲で $\pm 1/3$ 段ごとに発光露出補正量を正確に調整するか、黄色の進捗バーをスライドして素早く調整できます。



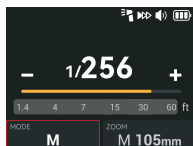
ダイヤルホイールおよびボタンの使用：回転調整ダイヤルホイールで選択します。「モード」アイコンを回転調整ダイヤルホイールで選択し、短く設定ボタンを押してモードに入ります。設定後、回転調整ダイヤルホイールで TTL モードを選択し、選択後は設定ボタンを短く押して終了します。回転調整ダイヤルホイールで発光露出補正量の範囲を選択し、設定ボタンを短く押して発光露出補正量の調整に入り、回転調整ダイヤルホイールで ± 3 の範囲内を $\pm 1/3$ 単位で精密に調整できます。また、ダイヤルホイールを素早く回すことでクイック調整も可能です。

●シャッターが切られる直前に予備発光を行い、ストロボがカメラからの情報を受信して主発光を行います。

M: 手動ストロボ

1/256~1/1 または 2.0~10 の範囲で、0.1 ステップまたは 0.3 ステップ単位で発光出力を設定できます。正確な発光露出を得るために、ハンドヘルド式のフラッシュ露出計を使用し、必要な発光出力を確認してください。

タッチ使用：「モード」アイコンを軽くタッチすることで M モードに切り替えることができます。画面上の「-」または「+」アイコンをタップして ± 0.1 段または ± 0.3 段の精密調整、または黄色の進捗バーを動かして素早い調整が可能です。



ダイヤルホイールおよびボタンの使用：回転調整ダイヤルホイールで「モード」アイコンを選択し、設定ボタンを短押ししてモード設定に入り、回転調整ダイヤルホイールで M モードを選択してください。選択後、設定ボタンを短押しして終了します。回転調整ダイヤルホイールで出力範囲を選択し、設定ボタンを短押しして出力範囲の調整に入り、回転調整ダイヤルホイールで ± 0.1 段または ± 0.3 段の精密調整を行うことができます。また、ダイヤルホイールを素早く回すことで迅速に調整することも可能です。

光制トリガー (S1/S2)：光制トリガーをオンにすると、光制センサーが待機状態となり、常時環境光の明暗変化を検知します。

S1 モード：M マニュアル発光環境に適しており、ワイヤレストリガーを使用した場合と同じ効果が得られます。ストロボはサブライツとしても使用可能で、メインストロボの最初の発光と同時にシンクロ発光し、様々な照明効果を実現できます。

S2 モード (プリ発光防止)：TTL 自動発光環境でご使用いただけるプリ発光防止機能付きモードです。ストロボは副灯としてご利用いただけます。プリ発光機能付きカメラ使用時、TTL プリ発光は無視され、2 回目のメイン発光とシンクロして発光します。つまり、光による 2 回のトリガーで発光します。

- ▲ 1. S1/S2 光制トリガーは、M モードでのみご使用いただけます。
2. 機能画面で光制トリガーを選択し、オンまたはオフを設定できます。画面を下にスライドするか、電源ボタンを素早く 2 回短押しすることで、機能画面に入り光制トリガーのオン/オフを設定できます。

ズーム: ストロボ照射範囲の設定

本ストロボには、2 種類のズーム方式がございます: 自動ズームおよびマニュアルズーム。自動ズーム時には、焦点距離がカメラのズームレンズの変化に応じて自動的に変わり、最適な発光効果を提供します。

自動ズーム:

A--m、この状態ではストロボが自動で発光カバー範囲を設定します。

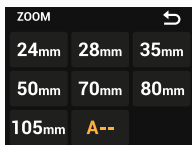
マニュアルズーム:

24mm-105mm(V1 mid C/V1 mid S/ V1 mid N)

24mm-105mm または 12-52mm (V1 mid O) 、24mm-105mm または 16-69mm (V1 mid F)

タッチ使用: 「ズーム」アイコンを軽くタッチしてズーム設定画面に入り、画面をタッチして自動ズーム (A--mm) またはマニュアルズームを選択できます

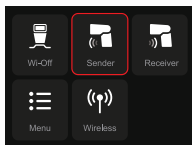
ダイヤルホイールおよびボタンの使用: 調節ダイヤルを回して「ズーム」アイコンを選択し、設定ボタンを短押ししてズーム設定に入り、調節ダイヤルを回してオートズームまたは必要な焦点距離を選択し、選択後に設定ボタンを短押しして終了します。



- ▲ 発光カバー範囲を手動で設定する場合、必ずレンズの焦点距離をカバーするようにしてください。これにより、写真に影の縁が生じません。

マスター制御モード

タッチ使用: 画面の左側から右へスワイプすると、モード画面が表示されます。画面上の「マスター」アイコンをタッチすると、マスター制御モードのメイン画面に入り、下にスワイプすることでより多くのグループが表示されます。



ダイヤルホイールおよびボタンの使用: 電源ボタンを短く押すと、モード画面が表示されます。回転調整ダイヤルホイールで「マスター」アイコンを選択し、設定ボタンを短く押すとマスター制御モードのメイン画面に入り、回転調整ダイヤルホイールを回してさらに多くのグループを確認できます。

マスター制御モード時は、ワイヤレスが標準で有効になります。

マスターグループ:

A グループ、B グループ、C グループ、D グループ、E グループ (V1 mid C)

M グループ、A グループ、B グループ、C グループ、D グループ (V1 mid S、V1 mid N、V1 mid O、V1 mid F)

TTL: 自動ストロボ

タッチ使用: グループ枠を長押しすることで、M マニュアル発光 / TTL 自動発光 / OFF を切り替えることができます。当該グループ枠に緑色の数値が表示されている場合、現在のグループは TTL 自動発光モードです。マイナスまたはプラスのアイコンを軽くタッチして発光露出補正量を調整するか、グループ枠下部の進捗バーをドラッグすることで素早く調整できます。

ダイヤルホイールおよびボタンの使用: 回転調整ダイヤルホイールを回してグループ枠を選択し、設定ボタンを短押しして設定面に入ります。設定ボタンを長押しすると、M マニュアル発光 / TTL 自動発光 / OFF を切り替えることができます。該当グループ枠に緑色の数値が表示された場合、現在のグループは TTL 自動発光モードです。回転調整ダイヤルホイールを回して発光露出補正量を選択し、設定後は設定ボタンを短押しして終了してください。

M: 手動ストロボ

タッチ使用: グループ枠を長押しすると M マニュアル発光 / TTL 自動発光 / OFF を切り替えることができます。該当グループ枠に白色の数値が表示されている場合は、現在のグループが M モードのマニュアル発光です。マイナスまたはプラスのアイコンをタッチして発光出力を調整するか、グループ枠下部の進捗バーをスライド

させて素早く調整できます。

ダイヤルホイールおよびボタンの使用: 回転調整ダイヤルホイールで任意のグループを選択し、設定ボタンを短押しして設定に入り、設定ボタンを長押しして M マニュアル発光 / TTL 自動発光 / OFF を切り替えます。該当グループ枠に白色の数値が表示されている場合は、現在のグループが M モードのマニュアル発光です。調節ダイヤルを回して出力を選択し、設定が完了したら設定ボタンを短押しして終了してください。

全グループのパラメーター一括調整

タッチ使用: “- ■ +”アイコンに軽く触れることで、発光出力または発光露出補正量を一括して調整できます。

ダイヤルホイールおよびボタンの使用: 回転調整ダイヤルホイールで “- ■ +” アイコンを選択し、設定ボタンを短押ししてください。一括調整設定に入り、回転調整ダイヤルホイールで発光出力または発光露出補正量を統一して調整できます。設定後は、設定ボタンを短押しして終了してください。

ズーム: ストロボ照射範囲の設定

自動ズームおよびマニュアルズーム (24mm~105mm) を選択できます。ズームの詳細については、トップモード内のズーム設定をご参照ください。

スレーブモード

タッチ使用: 画面左端から右にスワイプすると、モード画面が表示されます。画面上の「スレーブ」アイコンを軽くタッチすると、スレーブモードのメイン画面へ移動します。

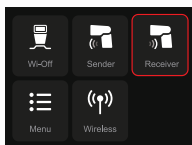
ダイヤルホイールおよびボタンの使用: 電源ボタンを短く押すと、モード画面が表示されます。回転調整ダイヤルホイールで「スレーブ」

アイコンを選択し、設定ボタンを短く押してスレーブモードのメイン画面に入ります。スレーブモード中は、ワイヤレスが標準で有効になります。

スレーブ・グループ:

現在のスレーブモードのグループは、A、B、C、D、E より選択可能です。

タッチ使用: 画面の「グループ」アイコンをタッチしてグループ設定画面に移動し、ご希望のグループをタッチすることで切り替えが可能です。



ダイヤルホイールおよびボタンの使用: 回転調整ダイヤルホイールで「グループ」アイコンを選択し、設定ボタンを短押ししてグループ設定に入り、回転調整ダイヤルホイールでグループを切り替え、設定ボタンを短押しして終了します。

TTL: 自動ストロボ

タッチ使用: 「モード」アイコンをタッチすると、TTL モードに切り替わります。

ダイヤルホイールおよびボタンの使用: 調節ダイヤルで「モード」アイコンを選択し、設定ボタンを短押ししてください。モード設定に入り、調節ダイヤルで TTL モードを選択し、選択後に設定ボタンを短押しして終了します。

6 さらに詳しい TTL 自動発光については、トップモード→TTL 自動発光モードの章をご参照ください。

M: 手動ストロボ

タッチ使用: 「モード」アイコンをタッチすると、M モードに切り替わります。

ダイヤルホイールおよびボタンの使用: 調節ダイヤルで「モード」アイコンを選択し、設定ボタンを短押ししてモード設定に入り、調節ダイヤルで M モードを選択し、選択後に設定ボタンを短押しして終了します。

6 M マニュアル発光に関する詳しい内容は、トップモード→M マニュアル発光モードの章をご参照ください。

ストロボ出力設定

M マニュアル発光モードを選択した場合、グループ枠のパラメータを設定でき、調整範囲は $1/256 \sim 1/1$ です。または 2.0~10 です。

タッチ使用: - または + アイコンを軽くタッチして発光出力を調整するか、グループ枠下部の進捗バーをスライドさせて素早く調整できます。

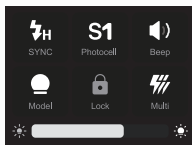
ダイヤルホイールおよびボタンの使用: 回転調整ダイヤルホイールで出力枠を選択し、設定ボタンを短押しして出力調整設定に入り、回転調整ダイヤルホイールで出力を選択します。設定が完了したら設定ボタンを短押しして終了します。

ズーム：ストロボ照射範囲の設定

自動ズームおよびマニュアルズーム（24mm~105mm）を選択できます。ズームの詳細については、トップモード内のズーム設定をご参照ください。

その他の機能

タッチ使用：トップ / マスター / スLEEPモード画面にて、画面上部から下方向へスワイプすると他の機能が表示されます。設定後は、下から上へスワイプして前の画面に戻ります。



ダイヤルホイールおよびボタンの使用：カメラトップ / マスター / スLEEPモード画面時、電源ボタンを素早く2回押してくださいすると、その他の機能が表示され、設定完了後に電源ボタンを短く押して前の画面に戻ります。

同期方式

タッチ使用：画面上の「シンクロ」アイコンを軽くタッチすると、シンクロ方式を切り替えることができます。

ダイヤルホイールおよびボタンの使用：回転調整ダイヤルホイールで「シンクロ」アイコンを選択し、設定ボタンを短く押してシンクロ方式を切り替えます。

⚡H ハイスピードシンクロ

ハイスピードシンクロ（FPストロボ）を使用すると、任意のシャッタースピードでストロボをシンクロさせることができます。ハイスピードシンクロ発光は、絞り優先で人物撮影の補助光として使用する際に特に便利です。

▶▶ 先幕シンクロ

先幕シンクロを使用すると、被写体の前に光の軌跡を作ることができ、主に日常のポートレートや静物の撮影に用いられ、シャッターが開いた瞬間に発光します。

▶▶ 後幕シンクロ

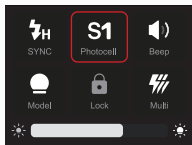
スローシャッターおよび後幕シンクロを使用すると、被写体の背後に光の軌跡を作ることができ、シャッターが閉じる直前の瞬間に発光します。

- ▲** 1. ご使用の機種が V1 mid S、V1 mid N、V1 mid O の場合は、カメラで後幕シンクロを設定してください。
2. V1 mid N ストロボをニコンカメラに接続して使用する場合、ニコンカメラのシャッターが高速シャッターに設定されると、ストロボは自動でハイスピードシンクロを起動し、シャッターが低速になると自動でハイスピードシンクロが解除されます。
3. ご使用の機種が V1 mid F の場合は、カメラで先幕シンクロ / ハイスピードシンクロ / 後幕シンクロを設定してください。

S1 光制御引き込み

タッチ使用：画面の「光制御」アイコンを軽くタッチすることで、OFF / S1 / S2 を切り替えられます。

ダイヤルホイールおよびボタンの使用：回転調整ダイヤルホイールで「光制御」アイコンを選択し、設定ボタンを短押しすると OFF/S1/S2 を切り替えることができます。

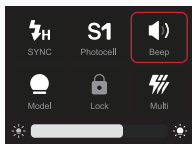


- ▲** 光制御による発光の詳細は、トップモード→M マニュアルモードの章をご参照ください。

ブザー

ブザーを有効にすると、ストロボが警告音を発します。

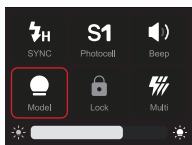
タッチ使用：画面上の「ブザー」アイコンを軽くタッチすることでオンまたはオフにできます。



ダイヤルホイールおよびボタンの使用：回転調整ダイヤルホイールで「ブザー」アイコンを選択し、設定ボタンを短押しするとオンまたはオフにできます。

モデリングライト

タッチ使用：画面上の「造型灯」アイコンを軽くタッチすることで、オンまたはオフにできます。造型灯がオンの場合、下部の進捗バーをスライドさせることで、1~10 段階の調節が可能です。



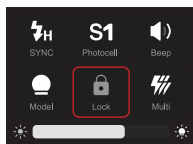
ダイヤルホイールおよびボタンの使用：回転調整ダイヤルホイールで「造型灯」アイコンを選択し、設定ボタンを短押しするとオンまたはオフにできます。造型灯がオンの場合、回転調整ダイヤ

ルホイールで下部の進捗バーを選択し、設定ボタンを短押しして明るさ調節モードに入り、回転調整ダイヤルホイールで 1~10 段階に調節し、設定完了後は設定ボタンを短押しして終了します。

画面ロック

タッチ使用: 画面の「ロック」アイコンを軽くタッチすると、画面ロック機能が有効になります。設定ボタンを 2 秒間長押しすると、ロックが解除されます。

ダイヤルホイールおよびボタンの使用: 回転調整ダイヤルホイールで「ロック」アイコンを選択し、設定ボタンを短押しすると画面ロック機能が有効になります。2 秒間長押しするとロックが解除されます。



ストロボ連続発光

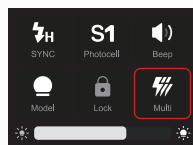
スローシャッターでストロボ連続発光を使用する場合、1 枚の写真に複数の連続した動きを写すことができます。発光周波数（1 秒あたりの発光回数〈Hz 表示〉）、発光回数、発光出力、および焦点距離を設定できます。

発光出力範囲: 1/256~1/4 または 2.0~8.0

発光回数: 1~100

発光周波数: 1~100

ズーム調整範囲: 自動ズームまたはマニュアルズーム



タッチ使用: 画面上の「マルチ発光」アイコンを軽くタッチすると、オン / オフを切り替えることができます。オンにした場合、画面下部から上にスワイプすると、ストロボ連続発光設定画面が表示されます。発光回数は値をスライドして選択し、Hz で発光周波数をスライド操作にて選択します。「-」または「+」アイコンをタッチして発光出力を調整できます。「ズーム」アイコンをタッチし、自動ズームまたは希望の焦点距離を選択してください。

ダイヤルホイールおよびボタンの使用: 回転調整ダイヤルホイールで「マルチ発光」アイコンを選択し、設定ボタンを短押ししてオン / オフを切り替えます。オン後、電源ボタンを短押しすると、ストロボ連続発光設定画面が表示されます。回転調整ダイヤルホイールにより、発光出力 / 発光回数 / 発光周波数 / ズームを選択できます。いずれかを選択後、設定ボタンを短く押しして設定画面に入り、回転調整ダイヤルホイールで各パラメーターを設定してください。設定完了後は、設定ボタンを短く押しして終了します。

マルチ発光使用時のシャッタースピードの決定方法

マルチ発光が停止するまで、シャッターは開いた状態を維持してください。下記の式でシャッタースピードを算出し、カメラで設定してください。

$$\text{発光回数} \div \text{発光周波数} = \text{シャッタースピード}$$

例として、発光回数を 10 回、発光周波数を 5Hz に設定した場合、シャッタースピードは 2 秒以上に設定する必要があります。

1. 反射が強い被写体を暗い背景の前でストロボ連続発光を使用すると、より効果的です。
2. 三脚および TTL トリガーのご使用を推奨いたします。
3. ストロボ連続発光では、1/1 および 1/2 の発光出力は設定できません。
4. ストロボ連続発光時にもカメラの B モード (BULB) 撮影が可能です。
5. ストロボ連続発光ではハイスピードシンクロの設定はできません。
6. ストロボ連続発光を使用しない場合は、必ずストロボ連続発光をオフにしてください。オフにしないと、M マニュアル発光または TTL 自動発光を設定できません。

最大連続発光回数

発光回数 発光出力	発光周波数 (Hz)	1	2	3	4	5	6-7	8-9
1/4		8	6	4	3	3	2	2
1/8		14	14	12	10	8	6	5
1/16		30	30	30	20	20	20	10
1/32		60	60	60	50	50	40	30
1/64		90	90	90	80	80	70	60
1/128		100	100	100	100	100	90	80
1/256		100	100	100	100	100	90	80

発光回数 発光出力	発光周波数 (Hz)	10	11	12-14	15-19	20-50	60-100
1/4		2	2	2	2	2	2
1/8		4	4	4	4	4	4
1/16		10	8	8	8	8	8
1/32		20	20	20	18	16	12
1/64		50	40	40	35	30	20
1/128		70	70	60	50	40	40
1/256		70	70	60	50	40	40

- ⚠** ストロボヘッドの過熱による損傷を防ぐため、10 回以上連続してマルチ発光を行わないでください。マルチ発光を 10 回行った後は、ストロボを必ず 15 分以上冷却してください。10 回以上連続してマルチ発光を実施した場合、ストロボヘッドの過熱を防ぐため、自動的に発光が停止する場合があります。この場合は、ストロボを必ず 15 分以上冷却してください。

ワイヤレス設定

タッチ使用: 画面の左端から右にスワイプするとモード画面が表示されます。画面上の「ワイヤレス設定」アイコンを軽くタッチしてワイヤレス設定画面に入ります。設定が完了したら、画面の左端から右にスワイプしてモード画面に戻ります。

Channel	ID
28	28
29	29
30	30
SCAN	SYNC

ダイヤルホイールおよびボタンの使用: 電源ボタンを短く押すと、モード画面が表示されます。調節ダイヤルを回して「ワイヤレス設定」アイコンを選択し、設定ボタンを短押ししてワイヤレス設定画面に入ります。設定完了後は電源ボタンを短押ししてモード画面に戻ります。

空きチャンネルのスキャン

他の方が同じチャンネルを使用して干渉を受けることを避けるため、チャンネルスキャン機能をご利用いただけます。

タッチ使用: 画面上の「チャンネルスキャン」アイコンを軽くタッチするとスキャンが開始されます。しばらくして画面に 8 組の空きチャンネルが表示されます。このとき、ご希望のチャンネルを軽くタッチすると、チャンネルが自動的に設定されます。

ダイヤルホイールおよびボタンの使用: 回転調整ダイヤルホイールを回して「チャンネルスキャン」アイコンを選択し、設定ボタンを短く押すとスキャンが開始されます。しばらくして画面に 8 組の空きチャンネルが表示されます。このとき、回転調整ダイヤルホイールを回してご希望のチャンネルを選択し、設定ボタンを短く押すとチャンネルが自動的に設定されます。

チャンネル設定

撮影現場で複数のワイヤレスフラッシュシステムを使用する場合、ワイヤレスチャンネルを変更することで信号干渉を防止できますが、必ずマスターユニットとスレーブユニットが同じチャンネルに設定されていることをご確認ください。

調節範囲: 01~32 です。

タッチ使用: チャンネル枠をスライドして、希望するチャンネルを選択してください。

ダイヤルホイールおよびボタンの使用: 調節ダイヤルを回してチャンネル範囲を選択し、設定ボタンを短押ししてチャンネル設定に入り、調節ダイヤルでチャンネルを選択します。設定完了後は設定ボタンを短押しして終了します。

識別番号の設定

信号干渉を避けるため、ワイヤレス通信チャンネルの変更だけでなく、ワイヤレス ID の変更によっても干渉を防止できます。マスターユニットとスレーブユニットを同じチャンネルおよびワイヤレス ID に設定してください。

調節範囲は OFF / 01~99 です。

タッチ使用: 識別番号枠をスライドし、ご希望の識別番号を選択するか、識別番号をオフにしてください。

ダイヤルホイールおよびボタンの使用: 回転調整ダイヤルホイールを回して識別番号の範囲を選択し、設定ボタンを短押しして識別番号設定に入り、回転調整ダイヤルホイールを回して識別番号を選択し、設定完了後に設定ボタンを短押ししてください。終了します。

ワイヤレスシンクロ

ワイヤレスシンクロにより、発信器と受信器を迅速に同じチャンネルおよび識別番号に設定できます。

ワイヤレスシンクロ受信器:

前提条件: 1. V1 mid をマスター制御モードに設定し、マスターアイコンが黄色で表示されます。

2. 受信機はレトロフラッシュ LUX MASTER であると仮定します。

タッチ使用: V1 mid 上のワイヤレスシンクロを軽くタッチし、レトロフラッシュ LUX MASTER 上のワイヤレスシンクロを軽くタッチすることでワイヤレスシンクロが可能です。

ダイヤルホイールおよびボタンの使用: V1 mid 上でワイヤレスシンクロを回転調整ダイヤルホイールで選択し、設定ボタンを短く押してワイヤレスシンクロを行います。レトロフラッシュ LUX MASTER 上でワイヤレスシンクロを回転調整ダイヤルホイールで選択し、SET ボタンを短く押すことでワイヤレスシンクロが可能です。

ワイヤレスシンクロ発信器:

前提条件: 1. V1 mid をスレーブモードに設定し、スレーブアイコンが黄色で表示されます。

2. 発信器はトリガー X3 であると仮定します。

タッチ使用: V1 mid のワイヤレスシンクロを軽くタッチし、トリガー X3 のワイヤレスシンクロも軽くタッチすることで、ワイヤレスシンクロが可能です。

ダイヤルホイールおよびボタンの使用: 回転調整ダイヤルホイールで V1 mid のワイヤレスシンクロを選択し、設定ボタンを短く押してワイヤレスシンクロを行います。調節ダイヤルでトリガー X3 のワイヤレスシンクロを選択し、調節ダイヤルを短く押すことでワイヤレスシンクロが可能です。








V1 mid ワイヤレスシンクロ：マスターユニットおよびスレーブユニットがいずれも V1 mid である場合も、ワイヤレスシンクロが可能です。







メニュー設定

タッチ使用：画面左端から右へスワイプすると、モード画面が表示されます。画面上の「メニュー」アイコンをタッチしてメニュー画面に入ります。設定後は、画面左端から右へスワイプしてモード画面に戻ります。

ダイヤルホイールおよびボタンの使用：電源ボタンを短押しすると、モード画面が表示されます。回転調整ダイヤルホイールで「メニュー」アイコンを選択し、設定ボタンを短押ししてメニュー画面に入ります。設定後は、電源ボタンを短押ししてモード画面に戻ります。

機種によってメニューの順序が異なる場合がございますので、実際の表示内容をご確認ください。以下にメニュー機能のみを説明いたします。

アイコン	機能	オプション		備考
	マスター発光 (V1 mid C のみ対応)	オフ		マスターユニットのストロボ発光オフ
		オン		マスターユニットのストロボ発光オン
	出力表示	1/256	0.1	最小出力レベルは 1/256 で、0.1 ステップまたは 0.3 ステップごとに調整可能です
			0.3	
		2.0	0.1	最小出力レベルは 2.0 で、0.1 ステップまたは 0.3 ステップごとに調整可能です
			0.3	
	TCM	オン		TTL モードの発光値を M モードの出力値に変換することができます
		オフ		本機能は無効です
	距離単位	メートル		m 単位で
		フィート		ft 単位で
	待機	オン		電源を入れた後、規定時間 (約 90 秒) 以上操作がない場合、ストロボは自動的にスリープ状態になります
		オフ		電源を切った後、規定時間 (約 90 秒) 以上操作がない場合、ストロボは自動的にスリープ状態にはなりません
	自動電源オフ	オフ		自動電源オフ機能は無効にする
		30 分		1. スタンバイがオフで、機上またはマスター制御モードの場合、30 分以上操作がないと自動で電源がオフになります 2. スリープモードの場合、30 分以上操作がないと自動で電源がオフになります
		60 分		1. スタンバイがオフで、機上またはマスター制御モードの場合、60 分以上操作がないと自動で電源がオフになります 2. スリープモードの場合、60 分以上操作がないと自動で電源がオフになります
		90 分		1. 待機時、カメラ上またはマスター制御モードにて、90 分以上操作がない場合は自動電源オフとなります 2. スリープモード時、90 分以上操作がない場合は自動電源オフとなります
	モデリングライト	連続		ストロボ発光時に造形灯が連続点灯します
		点滅		ストロボ発光時に造形灯が自動的に消灯します

アイコン	機能	オプション	備考
	画面設定	画面の明るさ	スクリーンの明るさは無段階で調節可能です
		30 秒	30 秒以上操作がない場合、スクリーンは待機状態になります
		1 分	1 分以上操作がない場合、スクリーンは待機状態になります
		2 分	2 分以上操作がない場合、スクリーンは待機状態になります
		3 分	3 分以上操作がない場合、スクリーンは待機状態になります
	ズーム	4/3	4/3 システム (V1 mid O にのみ対応)
		APS	APS システム (V1 mid F のみ対応)
		135	135 システム (V1 mid C、V1 mid S、V1 mid N は標準で本システムを採用)
	新規プロトコル (V1 mid S のみ対応)	オン	新プロトコルがデフォルトで有効になります
		オフ	カメラとストロボに互換性の問題が発生した場合は、こちらをオフにしてください
	言語 /Language	中国語	画面表示は簡体字中国語となります
		English	画面表示は英語となります
	工場出荷時の設定に戻す	キャンセル	工場出荷時設定への復元操作をキャンセルします
		確定	工場出荷時設定に戻します
	デバイス情報	無	本画面には本機の機種およびファームウェアのバージョンが表示されます

ワイヤレス多重ストロボ撮影 (2.4G ワイヤレス伝送)

本章では、ストロボ V1 mid をマスターとして、2.4G ワイヤレス受信機能を備えたストロボと組み合わせ、2.4G ワイヤレス伝送方式によるワイヤレス多重発光撮影の方法についてご説明いたします。

V1 mid をマスターランプとして使用する場合、多数のゴドックス 2.4G ワイヤレス X システム・スレーブランプを制御できます。

例として、ロケーションストロボ AD100Pro II、AD200Pro II、AD600Pro II、AD600BM II などがあります。ホットシューストロボ iT32、iT30Pro、V100、V480、レトロフラッシュ LUX MASTER などのストロボも対象となります。

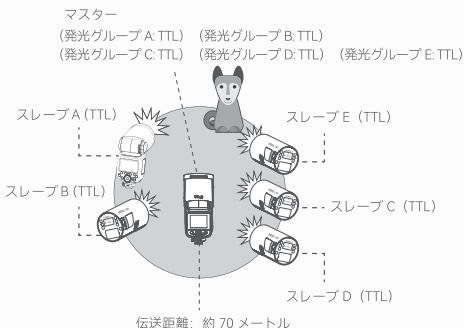
本章では、カメラに装着された V1 mid を「マスターランプ」とし、ワイヤレス制御される発光ランプを「スレーブランプ」とします。

▲ 注:

1. マスターランプおよびスレーブランプのグループ、チャンネル、識別番号はすべて一致するように設定してください。設定方法の詳細は「ワイヤレス設定」章をご参照ください。
2. 以下の操作は V1 mid C を例にしていますが、V1 mid S/V1 mid N/V1 mid F/V1 mid O ではグループ設定が異なる場合があります。

TTL: TTL 自動ストロボを使用したワイヤレス多重ストロボ撮影

V1 mid (マスターランプ) の発光グループ (A、B、C、D、E) をすべて <TTL> に設定することで、スレーブランプの操作は不要です。スレーブランプ A/B/C/D/E は自動的にワイヤレス多重発光撮影を行います。マスターランプで設定された露出補正值はスレーブランプにも自動的に反映されるため、個別の設定は不要です。



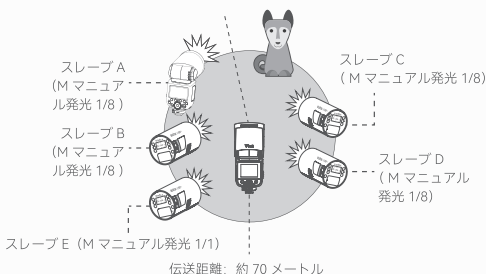
- ❶** V1 mid S/V1 mid N/V1 mid F/V1 mid O のマスター制御モードには E グループがありません。

M: M 手動ストロボを使用したワイヤレス多重ストロボ撮影

V1 mid (マスターランプ) の発光グループ (A、B、C、D、E) は、統一された発光出力や異なる発光出力に設定可能です。上記の操作と同様に、スレーブランプの手動設定は不要です。スレーブランプ A/B/C/D/E はマスターランプの設定に自動で連動し、ワイヤレス多重発光撮影を行います。

マスターランプ

(発光グループ A: M マニュアル発光 1/8) (発光グループ B: M マニュアル発光 1/8)
(発光グループ C: M マニュアル発光 1/8) (発光グループ D: M マニュアル発光 1/8)
(発光グループ E: M マニュアル発光 1/1)



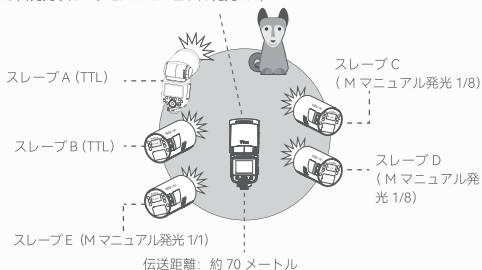
 V1 mid S/V1 mid N/V1 mid F/V1 mid O のマスター制御モードには E グループがありません。

異なるストロボモードによるワイヤレス多重ストロボ撮影

V1 mid (マスターランプ) の発光グループ (A、B、C、D、E) は、異なる発光モードに設定できます。スレーブランプの操作は不要です。スレーブランプ A/B/C/D/E は自動的に異なる発光モードで作動します。

マスターランプ

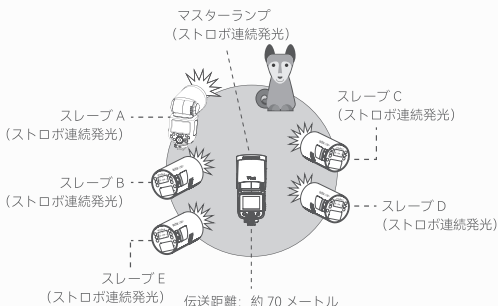
(発光グループ A: TTL) (発光グループ B: TTL)
(発光グループ C: M マニュアル発光 1/8) (発光グループ D: M マニュアル発光 1/8)
(発光グループ E: M マニュアル発光 1/1)



 V1 mid S/V1 mid N/V1 mid F/V1 mid O のマスター制御モードには E グループがありません。

ストロボ連続発光によるワイヤレス多重ストロボ撮影

V1 mid（マスターランプ）をストロボ連続発光に設定し、ワイヤレスストロボ連続発光の発光出力・発光回数・発光周波数をそれぞれ設定できますが、スレーブランプの手動設定は必要ありません。スレーブランプ A/B/C/D/E は、マスターランプで設定されたストロボ連続発光に従い、ワイヤレス多重発光撮影を行います。1 台のマスターランプで最大 5 グループのストロボ連続発光を制御できます。



📷 V1 mid S/V1 mid N/V1 mid F/V1 mid O のマスター制御モードには E グループがありません。

その他の応用

シンクロ端子トリガー

シンクロ端子の仕様は $\phi 2.5\text{mm}$ であり、ここにシンクロコードまたはトリガーのプラグを差し込むことができます。ストロボのシンクロ発光を行います。

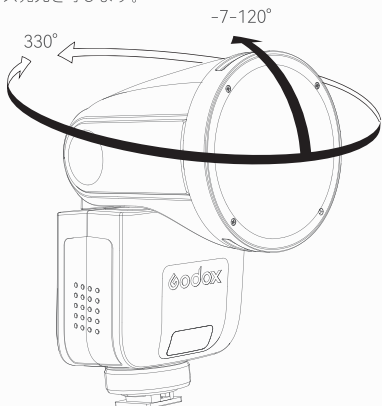
造型閃光

カメラに絞り込みボタンがある場合は、そのボタンを押すことで 1 秒間の連続発光が行われます。この現象は造型閃光と呼ばれます。造型閃光を利用することで、被写体上の光影効果や照明バランスを確認できます。ワイヤレス撮影でも通常のストロボ撮影でも、造型閃光を行うことが可能です。

- ⚠ 1. 造型閃光を 10 回以上連続して発光させないでください。10 回連続で造型閃光を発光させた場合は、ストロボヘッドの過熱や破損を防ぐため、必ず 10 分以上冷却してください。
- 2. キヤノン EOS 300 および B 型カメラは造型閃光に対応していません。
- 3. V1 mid S/V1 mid F/V1 mid O はモデリング発光に対応していません。

バウンス発光

ストロボヘッドを壁や天井に向けて発光させることで、ストロボの光が被写体を照らす前に壁等で反射します。これによって被写体背面の影を和らげ、より自然な撮影効果が得られます。この方式をバウンス発光と呼びます。



- 1. 壁や天井が遠すぎる場合、バウンス発光が弱くなり、露出不足となるおそれがあります。
- 2. 壁や天井は平坦で白色であることが効率的な反射に適しています。反射面が白色でない場合、写真に色かぶりが生じる場合があります。

カメラメニューからストロボを制御します (V1 mid C のみ対応)

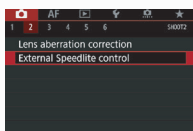
ストロボを EOS カメラに取り付けることで、カメラメニューからストロボのカスタム機能を設定できます。

主な設定可能機能は以下のとおりです。ストロボモード、ワイヤレスストロボ機能の設定およびその他の条件によって、利用可能な設定が異なります。

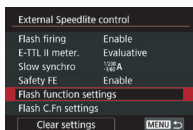
機能	
ストロボ発光	起動 / 停止
E-TTL バランス	雰囲気優先 / 標準 / 発光優先
TTL 測光	評価 (顔優先) / 評価 / 平均
連写ストロボ制御	毎回撮影 E-TTL / 初回撮影 E-TTL
絞り優先モード時のストロボシンクロ速度	
ストロボモード	TTL 発光測光 (自動発光) / マニュアル発光 / マルチ発光 (マルチ発光)
ワイヤレスストロボ機能	ワイヤレス発光: オフ / 無線伝送
ストロボズーム (発光カバー範囲)	
シャッターシンクロ	先幕シンクロ / 後幕シンクロ / ハイスピードシンクロ
発光露出補正	

ストロボ機能設定

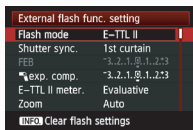
1. <ストロボ制御> または <外部ストロボ制御> を選択してください。



2. <ストロボ機能設定> または <外部ストロボ機能設定> を選択してください。



3. カメラによって表示画面および表示される項目が異なる場合があります。




1. ストロボのすべてのカスタム機能設定を初期化するには、手順 2 の画面で<設定をクリア>を選択し、すべてのストロボカスタム機能、または外部ストロボのカスタム機能設定を消去してください。
2. すでにストロボで発光露出補正が設定されている場合、カメラで発光露出補正を設定することはできません。カメラで設定を行う際は、まずストロボの発光露出補正を「0」にしてください。
3. カメラおよびストロボで発光露出補正以外のストロボカスタム機能やストロボ機能設定を行った場合は、最後に設定した内容が有効となります。

グローバルシャッター同期撮影（V1 mid S のみ対応）

ストロボ V1 mid S とグローバルシャッターカメラのイメージセンサーを併用することで、ストロボはカメラで使用可能な全シャッタースピード範囲でシンクロでき、従来のハイスピードシンクロ撮影（HSS）よりも効率的なストロボ露出が可能となります。

1. ストロボ V1 mid S を TTL 自動発光モードでご使用の場合、グローバルシャッターカメラと組み合わせることで、低速シャッターでも高速シャッターでもストロボが正常にシンクロ発光します。非グローバルシャッターカメラに比べ、グローバルシャッターカメラを使用することで、ストロボのハイスピードシンクロ発光時間が約 2~5 ミリ秒と短くなり、ストロボのリサイクルタイムが速く、より多くの撮影が可能となります。
2. ストロボ V1 mid S を M マニュアル発光モードでご使用時に、高速なシャッタースピード（シャッタースピードが 1/600 より速い場合）で単発発光（ハイスピードシンクロではない）を行いたい場合は、カメラのストロボ発光遅延時間を調整することで、カメラの露出時間と合わせ、より適切な光量で撮影できます。本モードでは、ハイスピードシンクロモードと比べて同じ出力設定でも、優れたガイドナンバーを得ることが可能です。

カメラのストロボ発光時間設定の場所：

カメラの MENU → （露出 / カラー） → [ストロボ] → [発光時間設定] → [電源を入れる] → 発光時間を所定の値に設定してください。

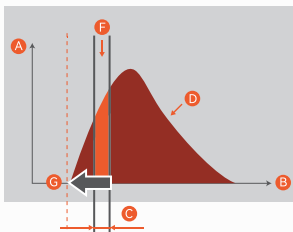
カメラ ADJ 発光時間設定メニュー：

オン：手動で発光時間を調整します（0 マイクロ秒 ~1000 マイクロ秒）。

オフ：発光時間を調整しません（シャッタースピードが 1/600 に達した場合、オフに設定すると発光方式は単発発光ではありません）。

ストロボとシャッターの位置合わせ調整:

高速シャッターでの単発発光には、非常に厳密なタイミング合わせが必要です。原理は図の通り、ストロボが最適な光量を発するタイミングでシャッターを開く必要があります。



A: ストロボ光量

D: 1/256 発光時のストロボ光量

B: 時間

F: 露出のストロボ光量

C: シャッタースピード

G: ストロボ発光開始時間

調整方法は下記の通りです。

ストロボのモードを M に設定し、カメラメニューに入り、カメラのストロボシンクロ時間設定を探してください。ADJ を有効にします。ADJ パラメーターを入力してください。ADJ パラメーターはご使用のカメラおよびストロボに応じて異なります。V1 mid S および A9MIII をご使用の場合、V1 mid S でワイヤレスを有効にしていない場合、このパラメーターは約 140 マイクロ秒です。ワイヤレスを有効にしている場合は約 540 マイクロ秒となります（他のグローバルシャッターカメラを使用する場合は、全ての工程で調整を行い、同期時間を確定してください）。上記のパラメーターに設定した後、カメラのシャッタースピードを 1/800000 に調整し、ストロボの出力を 1/256 に設定してください（シャッタースピードが速く、出力が低いほどシンクロ精度への要求が高くなります。この組み合わせで調整できれば、他の組み合わせも通常適切にご使用いただけます。シャッタースピードを速く、出力を高く設定した場合、ストロボの発光時間がシャッター時間を大きく上回るため、この場合はタイミングを後方にずらし、ストロボの発光ピークを選択してください）、ストロボの発光がシンクロしていない場合は、ADJ パラメーターを微調整し、露出が最適になった時点で他のシャッタースピードの撮影状況をテストしてください。

- ▲** 1. カメラのシャッタースピードを 1/10000 より速く設定して撮影した場合、明るさや色が異なることがあります。
2. グローバルシャッターイメージセンサーを搭載したカメラでは、ハイスピードシンクロ設定が [ON] または [OFF] の場合でも、カメラ上に HSS アイコンは表示されません。
3. ストロボがシンクロコードを用いてカメラと接続し撮影を行う場合、カメラはグローバルシャッター同期撮影ではなく、従来のハイスピードシンクロ撮影方式となるため、ストロボ光が到達する距離が短くなります。

保護機能

熱保護

- ストロボヘッドの過熱および損傷を防ぐため、1/1 出力レベルで規定回数を超える高速連続発光や、ハイスピードシンクロ時に 1/1 出力レベルで 60 回を超える高速連続発光は行わないでください。
- 表記された回数を超えて連続発光を行った場合、ストロボ内部の過熱保護機能が作動し、チャージ時間が 10 秒以上になることがあります。このような現象が発生した場合は、ストロボを約 10 分間冷却してください。正常な状態に戻ります。
- 熱保護が作動すると、ディスプレイ上に <🔥> が表示されます。

過熱保護機能が作動する連続発光回数：

発光回数 焦点距離 出力レベル	24mm	28mm	35mm	50mm	70mm	80mm	105mm
1/1	40	50	60	60	75	75	80
1/2	60	75	91	91	114	114	120
1/4	120	150	182	182	231	231	240
1/8	300	300	300	300	300	300	300
1/16	600	600	600	600	600	600	600
1/32	1200	1200	1200	1200	1200	1200	1200
1/64	2000	2000	2000	2000	2000	2000	2000
1/128	3000	3000	3000	3000	3000	3000	3000
1/256							

ハイスピードシンクロモード下で、熱保護機能が作動するまでの連続発光回数:

出力レベル	連続発光回数
1/1	60
1/2	75
1/4	100
1/8	
1/16	
1/32	
1/64	
1/128	
1/256	

その他の保護

機器の安全な動作を確保するため、システムは常時予防保護を行っております。以下の表示記号をご参照ください。

LCD 表示	警告内容
Error1	ストロボのリサイクルシステムに異常が発生し、リサイクルトリガーができません。再起動してください。解決しない場合は修理をご依頼ください。
Error3	ストロボチューブ両端の電圧が過剰です。修理をご依頼ください。
Error5	ストロボ回路に異常が発生しました。修理をご依頼ください。
Error9	ファームウェアアップデートに誤りがあります。正しいファームウェアアップデートを実施してください。

ゴドックス 2.4G ワイヤレス誤発光の原因と対処方法

1. 外部環境における 2.4G 信号干渉 (例: ワイヤレス基地局、2.4GWi-Fi ルーター、Bluetooth 機器等)

→ トリガーのチャンネル CH 設定を調整してください (+10 を推奨)。干渉のないチャンネルを選択してください。作業中、または作業時には、他の 2.4G 機器の電源を切ってください。

2. ストロボが既にチャージされているか、またはチャージ速度が連写速度に追従しているか(ストロボ準備表示灯が点灯していること)をご確認いただき、さらに過熱保護やその他の異常状態になっていないこともご確認ください。

→ ストロボの出力レベルを下げてください。TTL モードの場合は M モードに切り替えてお試しください (TTL モードでは事前発光が一度必要です)。

3. トリガーとストロボの距離が近すぎませんか（距離 < 0.5m）

→トリガーで「近距離ワイヤレスモード」をオンにしてください。

X1 シリーズ：トリガーボタンを押したまま電源を入れ、インジケーターが2回点滅するまで押し続けてください。

Xpro・X2T シリーズ：C.Fn-DIST を 0~30m に設定してください。

X3 シリーズ：トリガー距離を 0~30m に設定してください。

4. トリガーおよび受信端デバイスが低電状態であるかどうか

→バッテリーを交換するか、速やかに充電してください。

5. トリガーのファームウェアが旧バージョンです

→トリガーのファームウェアアップデートを行ってください。アップデートの詳細はトリガーの取扱説明書をご参照ください。

6. カメラのファームウェアが旧バージョンです

→カメラのファームウェアアップデートを行ってください。アップデートの詳細はカメラの取扱説明書をご参照ください。

故障診断ガイド

問題が発生した場合は、本トラブルシューティングガイドをご参照ください。

ストロボが発光しません

- ストロボのホットシューがカメラに確実に装着されていることを確認してください。
- ストロボおよびカメラの電子接点が汚れている場合は、乾いた布で接点を拭いてください。
- カメラのファインダー内に <⚡> アイコンまたは <⚡H> アイコンが表示されない場合は、ストロボの充電が完了するまでお待ちいただき、ストロボの準備完了インジケーターが点灯していることをご確認ください。
- ストロボの準備完了インジケーターがすでに点灯しているにもかかわらず、カメラのファインダー内に <⚡> アイコンまたは <⚡H> アイコンが表示されない場合は、ホットシューの接続を確認し、ストロボがカメラにしっかりと装着されていることをご確認ください。
- 長時間待ってもストロボの準備完了インジケーターが点灯しない場合は、バッテリーに電力があるかご確認ください。バッテリー残量が少ない場合（ストロボ画面上のバッテリーアイコンが赤く表示されている場合）は、バッテリーを交換するか、速やかに充電してください。

自動ズームが作動しません。

- ストロボがカメラに確実に装着されていません。ストロボのホットシューを確実にカメラに装着してください。

発光による露出が不足、または過度です。

- ハイスピードシンクロを使用する際は、有効な発光範囲が小さくなりますので、被写体が表示された有効発光範囲内にあることをご確認ください。
- 主な被写体が暗すぎる、あるいは明るすぎる場合は、適切なストロボ補正值を設定してください。

写真にケラレが発生する、または被写体の一部のみのみ照射される場合があります。

- カメラのレンズ焦点距離がストロボの発光カバー範囲を超えている場合は、ストロボの現在の発光カバー範囲をご確認ください。本製品のヘッドズーム範囲はフルサイズシステムで 24-105mm です。
- 発光カバー範囲を A 自動ズームに設定してください。

仕様パラメーター

型式	V1 mid C	V1 mid S	V1 mid N
グローバルシャッター同期撮影	非対応	対応	非対応
ワイヤレス無線グローバルシャッター同期	非対応	対応	非対応
造型閃光	対応	非対応	対応
発光カバー範囲	自動ズーム（レンズの焦点距離および画像サイズに適した発光カバー範囲を自動で設定）		
	マニュアルズーム（24-105mm）		

型式	V1 mid O	V1 mid F
グローバルシャッター同期撮影	非対応	
ワイヤレス無線グローバルシャッター同期	非対応	
造型閃光	非対応	
発光カバー範囲	自動ズーム（レンズの焦点距離および画像サイズに適した発光カバー範囲を自動で設定）	
	マニュアルズーム（24-105mm または 12-52mm）	マニュアルズーム（24-105mm または 16-69mm）

型式	V1 mid C/V1 mid S/V1 mid N/V1 mid F/V1 mid O
ヘッド回転範囲	ストロボヘッド回転 / チルト: 水平方向 0~330°、垂直方向 -7°~120° (バウンス発光)
発光持続時間 (t0.1)	1/600 秒 ~1/20000 秒
露出制御	
露出制御システム	TTL 自動発光、マニュアル発光
発光露出補正 (FEC)	±3 段の範囲で 1/3 段ずつ調整可能
同期方式	ハイスピードシンクロ (最高 1/8000 秒、Sony グローバルシャッターカメラでは最高 1/80000 秒)、先幕シンクロ、後幕シンクロ
ストロボ連続発光	対応 (最大発光回数 100 回、最大発光周波数 100Hz)
ワイヤレス発光 (無線 2.4G 伝送)	
ワイヤレス機能	マスターユニット / スレーブユニット
マスターユニットグループ	A、B、C、D、E (V1 mid C) または M、A、B、C、D (V1 mid N、V1 mid S、V1 mid O、V1 mid F)
スレーブユニットグループ	A、B、C、D、E
伝送範囲 (約)	70m
チャンネル	32 グループ : 01~32
ID	OFF/01~99
LED 造形ランプ	
出力	2W
色温	5300K±200K
電源	
リチウムイオンバッテリー	7.2V / 2200mAh リチウムイオンバッテリー
リサイクルタイム	最速 1.7 秒。連続発光回数が増加し、温度が上昇すると充電時間が長くなります。機器が冷却されると、最大充電速度に回復します。
発光回数 (1/1 段)	約 650 回
省エネ	スタンバイ / 自動電源オフ機能搭載
シンクロトリガー方式	ホットシュー、2.5mm シンクロコード
寸法	
外形寸法	168mm×72mm×72mm
質量 (バッテリー未装着時)	約 329g
質量 (バッテリー装着時)	約 413g

仕様およびパラメーターは予告なく変更される場合があります。

ファームウェアアップデート

- 本製品の USB 端子は USB Type-C 端子です。USB Type-C 充電ケーブルをご使用ください。
- 本製品のファームウェアアップデートには、Godox G3 V2.0 プログラムソフトウェアの対応が必要です。ファームウェアアップデートの前に、必ず「Godox G3 V2.0 ファームウェアアップデートソフトウェア」をインストールし、該当するファームウェアファイルを選択してください。
- 製品のファームウェアアップデートに伴い、取扱説明書は最新の電子版をご参照ください。
- Godox G3 V2.0 ファームウェアアップデートソフトウェア ダウンロードアドレス: <https://www.godox.com.cn/firmware-G3/>

対応カメラリスト

V1midC は、以下のキャノン EOS シリーズカメラ機種に対応しています。

80D、90D、7D、6D、70D、750D、760D、5D Mark IV、EOS 1DX、6D Mark II、77D、800D、5D Mark III、5D Mark II、60D、7D Mark II、600D、50D、30D、40D、500D、M5、M3、M50、R、RP、M6 II、R5、1500D、3000D、R7、R6 II、R50、R8、R5C、R10、R100、R5 II、R3、200D II

V1midS は、以下のソニー製カメラ機種に対応しています。

α77 II、α99、α77、DSC-RX10、α6000、α7R、α350、α7R II (4.0)、α7R III、α7M3、α9、α7R IV、α7R5、α7M IV、ZV-E10、A9 III、A7C、A7C II、α6400、α6500

V1midN は、以下のニコン製カメラ機種に対応しています。

D800、D750、D700、D610、D500、D200、D300S、D5、D4、D810、D780、D5300、D5200、D5100、D5000、D3300、D3100、D60、Z6、Z7 II、Z8、ZFC

V1midO は、以下のオリンパスまたはパナソニック製カメラ機種に対応しています。

オリンパス: E-M1、PEN-F、E-M10 II、E-PL8、E-P5、E-M10 III
パナソニック: GH4、LX100、DMC-GF1、DMC-G85、DMC-GX85
DMC-LX100、DMC-FZ2500GK、S1

V1midF は、以下のフジ製カメラ機種に対応しています。

フジによるストロボの制御方式の違いに基づき、以下の区分に分類されます。

A クラス: X-Pro2、X-T20、X-T2、X-T1、GFX50s、GFX50R、X-T30、X-T4、X-T3、X-S20、X-T5


B クラス: X-Pro1、X-T10、X-E1、X-A3


C クラス: X100F、X100T

カメラ互換性および機能対応一覧表:

	カメラ上ストロボ						
カメラ	TTL ストロボ制御			M ストロボ制御			リピーティング発光
	先幕シンクロ	後幕シンクロ	ハイスピードシンクロ	先幕シンクロ	後幕シンクロ	ハイスピードシンクロ	
A クラス	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
B クラス	✓	✓	--	✓	--	--	✓
C クラス	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓

	2.4G マスター / スレーブストロボ						
カメラ	TTL ストロボ制御			M ストロボ制御			リピーティング発光
	先幕シンクロ	後幕シンクロ	ハイスピードシンクロ	先幕シンクロ	後幕シンクロ	ハイスピードシンクロ	
A クラス	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
B クラス	✓	✓	--	✓	✓	--	✓
C クラス	✓	--	--	✓	--	--	✓

-  1. カメラ X100T には後幕シンクロおよび高速シンクロ機能がありません。
2. カメラ X-Pro1/X-T10 には高速シンクロ機能がありません。ストロボが M モード制御の場合、カメラの前幕・後幕モードは変更できません。

-  1. 本表は現在確認済みのカメラ機種のみ記載しており、すべてのカメラ機種を網羅しているわけではありません。他のカメラ機種については、お客様ご自身でご確認ください。
2. 当社は将来、本表の内容を変更する権利を有します。

製品保証

ご愛用いただきありがとうございます。本保証書は保証サービス申請の重要な証明となります。販売業者とともに必要事項をご記入の上、必ず大切に保管してください。

製品情報	型式	製品バーコード
ご使用者情報	氏名	連絡先電話番号
	住所	
販売店情報	名称	
	連絡先電話番号	
	住所	
	販売日	
備考		

注：本書類は販売業者の押印により確認されます。

適用製品

本書類は関連する《製品保証情報》（後述）に記載された製品に適用されます。それ以外の範囲に含まれない製品や部品（プロモーション品・景品・出荷後に追加された部品等）は本保証の対象外となります。

保証期間

製品および部品の該当する保証期間は、関連する製品保証情報に基づき実施されます。保証期間は製品の初回購入日から起算し、購入日は保証書に記載された日付が基準となります。

保証サービスの受け方

製品の販売業者または認定サービス機関へ直接ご連絡いただくか、ゴドックス製品のアフターサービス窓口までお電話にてご連絡いただき、当社のサービス担当者がご案内いたします。保証を申請される際には、有効な保証書をご提示いただくことが保証サービスご利用の条件となります。有効な保証書をご提示いただけない場合でも、当社が製品または部品を保証対象と認めた場合には、保証サービスのご提供が可能です。これは当社の義務ではありません。

保証が適用されない場合

製品または部品が保証期間を超えている場合など、下記の状況では本書記載の保証およびサービスは適用されません：誤ったまたは不適切な使用・保守・保管による故障や損傷（例：不適切な搬送、正当な用途以外での使用、不適切な外部機器の抜き差し、落下や外部からの圧力など）；不適切な温度、溶剤、酸・アルカリ、水没または多湿環境への接触・暴露；ゴドックスの認可を受けていない機関や個人による取付け、修理、改造、追加または分解による故障や損傷④製品または部品本来の識別情報が変更された場合や削除された場合。⑤有効な保証書がない場合。⑥正規に許可されていないソフトウェア、標準外ソフトウェア、または非公開ソ

ソフトウェアの使用による故障や損傷。⑦不可抗力または予期せぬ事故による故障や損傷。⑧その他、製品自体の品質問題以外の原因による故障や損傷。上記の場合には、関係する責任のある当事者にご相談ください。ゴドックスはこれに関して一切の責任を負いかねます。保証期間外または保証範囲外の部品、付属品、ソフトウェアが原因で製品が正常にご使用いただけない場合、それは保証範囲内の故障には該当しません。製品の使用過程で発生する通常の色落ち、摩耗、および消耗は、保証期間内の故障には該当し。

製品の修理保証とサービスサポートとの情報

製品の保証期間およびサービス種別は、以下の「製品保証情報」に従って実施されます。

部品	保証期間（月）	保証サービス種別
内部回路基板	12	お客様による持ち込み修理
その他（例：フラッシュチューブ、光効果アクセサリ、各種ケーブルまたはその他の	無	保証なし

ゴドックス製品アフターサービス電話: 0755-29609320-8062